

デジタルアーカイブジャパン推進の状況について

2020年4月10日

内閣府 知的財産戦略推進事務局

取組の経緯

2003	<u>知的財産戦略推進本部</u>	
2013	<u>デジタルアーカイブ推進に関するタスクフォース</u>	
2015	<u>関係省庁連絡会／実務者協議会</u>	
	・デジタルアーカイブ推進の方向性 (2017年4月)	
	・デジタルアーカイブ構築・共有・活用ガイドライン (2017年4月)	
2017	<u>デジタルアーカイブジャパン推進委員会／実務者検討委員会</u>	
	・第一次中間とりまとめ (2018年4月)	
	・第二次中間とりまとめ (2019年4月)	
	・デジタルアーカイブにおける望ましい二次利用条件表示の在り方について (2019年4月)	
	・3か年総括報告書 我が国におけるデジタルアーカイブ推進の進捗 (2020年5月予定)	
	・デジタルアーカイブのための長期保存ガイドライン (2020年5月予定)	
2019	<u>ジャパンサーチ試験版公開</u>	※ <u>ジャパンサーチ</u> とは、さまざまな分野の多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる「 <u>国の分野横断型統合ポータルサイト</u> 」
2020	<u>ジャパンサーチ正式版公開(夏までに)</u>	

①デジタルコンテンツの拡充

- ・柔軟な権利制限規定等、著作権法の改正による法的基盤が整備された。
- ・個人情報保護法制への対応等について今後、検討。

②デジタル情報資源のオープン化／利活用のための基盤整備

- ・二次利用条件表示についてのガイドラインをとりまとめた。今後、普及に努める。

③デジタルアーカイブ構築や連携を推進する評価や枠組みづくり

- ・デジタルアーカイブの取組を評価するアセスメントツールを作成・公表。
- ・長期保存ガイドラインを作成・公表予定。
- ・連携推進のためのインセンティブについて今後、検討。

④分野横断統合ポータルサイトの構築

- ・ジャパンサーチ試験版を2019年2月に公開。
- ・ジャパンサーチ正式版を2020年夏までに公開予定。

⑤つなぎ役（各アーカイブ分野・地域コミュニティにおけるメタデータを集約し、とりまとめる機関）の支援

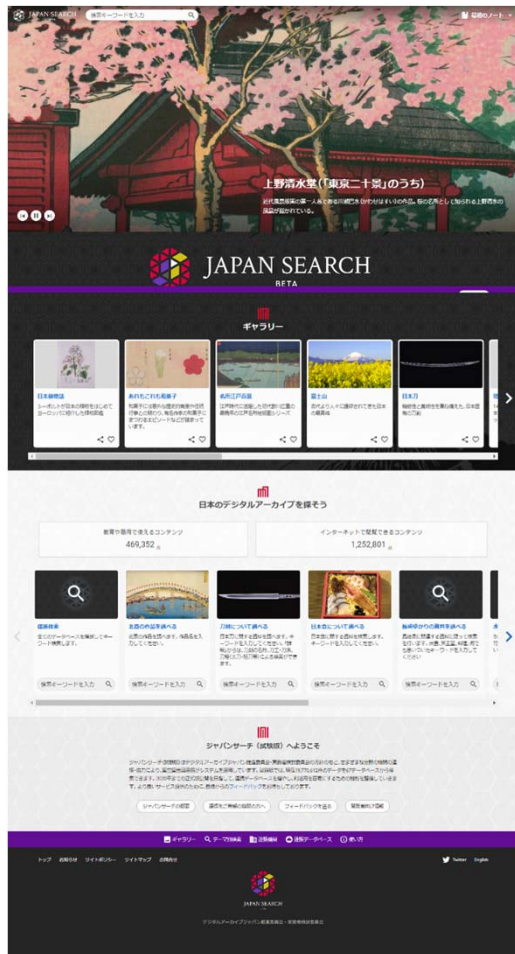
- ・役割の明確化とメリット（インセンティブ等）の創出について引き続き検討。

⑥アーカイブ機関の人材教育支援

- ・多様な能力を必要とするアーカイブ人材の育成について引き続き検討。

(参考) ジャパンサーチとは

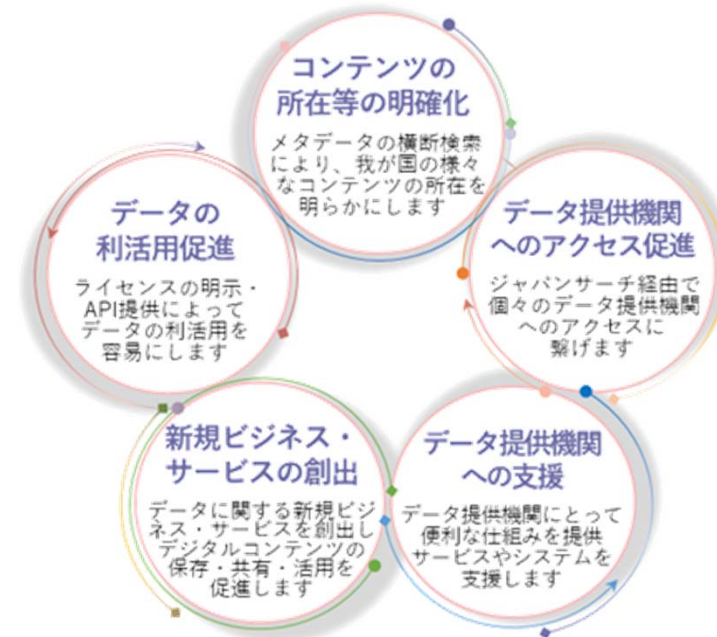
ジャパンサーチTOP
<https://jpsearch.go.jp/about>



ジャパンサーチは、さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携して、我が国が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる国の**分野横断統合ポータルサイト**

〈主な機能〉

- 集約したメタデータを、検索以外にも利活用しやすい形式で提供し、コンテンツの利活用を促進する基盤としての機能
- さらに、コンテンツの所在を明らかにし、我が国のデジタル情報資源が効率的に発見され、国全体として有効に活用されていくこと推進する機能
- 文化の保存・継承・発信だけでなく、観光や地方創生、教育研究、ビジネスへの利用など、新たな価値創出、イノベーション推進にも貢献する機能



運営：実務者検討委員会（事務局：知的財産戦略推進事務局）

運用 開発：国立国会図書館

3. 分散した多様な個性の「融合」を通じた新結合を加速する

(2) 当面の施策の重点

④ デジタルアーカイブ社会の実現

(現状と課題)

我が国の様々なコンテンツをデジタルアーカイブ化する取組は、文化の保存・継承の基盤となるだけにとどまらず、多様なコンテンツの融合の場として活用することにより新しいコンテンツを生み出したり、国内外への発信によりインバウンドの促進や海外における日本研究を活性化することにもつながるものである。

デジタルアーカイブが日常的に活用される社会を実現するためには、コンテンツに関する所在情報等のメタデータに簡単にアクセスでき、利活用しやすいよう二次利用条件が整備されるとともに、肖像権やプライバシーなどとデジタルアーカイブ振興との調和についての検討が求められる。

デジタルアーカイブジャパン推進委員会・実務者検討委員会では、様々な分野におけるデジタルアーカイブ構築の具体的な取組について工程表を決定するとともに、デジタルアーカイブの構築・利活用に係る実務的な課題について議論を行ってきた。その結果、デジタルアーカイブにおける望ましい二次利用条件表示の在り方について中間まとめを行ったが、今後、これを普及することにより、デジタルアーカイブの利活用が促進されることが期待される。また、2019年2月、国の分野横断型の統合ポータル「ジャパンサーチ」の試験版を一般公開したが、今後は、2020年の本格運用を目指し、さらに改善を進めていくこととしている。

さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2025年の大阪万博を見据え、インバウンドの促進や海外に対する日本文化の発信力の強化に資するため、デジタルアーカイブの多言語化や、多様な分野、地域の文化資源等のデジタルアーカイブとの連携を推進することが期待される。

(施策の方向性)

- デジタルアーカイブの構築・利活用の推進や連携を図るため、また、ジャパンサーチの本格公開に向けた機運醸成を図るため、産学官の関係者を一堂に集めたフォーラムを開催し、情報共有、意見交換を行う。
(短期) (内閣府、国立国会図書館、関係府省)
- 関係省庁と連携しながら、デジタルアーカイブの利活用モデルの検討や課題の整理、長期利用保証の在り方の検討、つなぎ役の役割や分担の明確化、ジャパンサーチ本格公開後の運営体制などの検討を行う。
(短期、中期) (内閣府、国立国会図書館、関係府省)
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2025年の大阪万博に向けて、デジタルアーカイブを海外に発信するため、日本遺産を構成する文化資源や国宝・重要文化財以外の地域の文化資源に関するデータの集約、画像掲載率の向上、多言語化を含め利活用に資する取組を推進する。
(短期) (文部科学省、関係府省)
- メディア芸術作品の保存・活用に必要な基盤となる所蔵情報等の運用・活用、各研究機関等におけるメディア芸術作品のアーカイブ化を推進することにより情報拠点の構築を支援する。
(短期) (文部科学省)
- マンガ、アニメ及びゲーム等のメディア芸術の情報拠点等の整備を進め、デジタルアーカイブジャパンとも連携したコンテンツ発信の場とする。
(短期、中期) (文部科学省、関係府省)
- 全国の大学等研究機関の人文学術情報を集約し、人文学分野のつなぎ役としてジャパンサーチとの連携を行う。
(短期、中期) (文部科学省)